

「生きておられる主イエス・キリスト」の
愛のうちに結ばれて



*間もなく私たちは聖週間に入り、イエスのこの地上での最後の夕食、受難と死、復活を記念する日々を迎えようとしています。その典礼を大切に、その典礼を日々の生活を潤す泉とするように心がけることをお勧めしたいと思います。—その典礼は忙しい毎日の生活、慌ただしい「時」の流れの中で「一旦停止する」ことを呼びかけているのではないのでしょうか。

—現代社会や世界を見てよく思うのですが、私たち一人ひとりにも人間としてキリスト者として生きるために、アクセルばかりではなく、ブレーキを踏むこと、一旦停止することは命に関わる問題です。高速道路には緊急停止のための車線があるように、私たちの生活の中でもこのような「空間」を作ることには欠かすことのできないことです。



●歩んだ道を振り返り、どうして、何のために自分が生きているのか、何に向かって走っているのか、について自分の生き方を問いかけるためです。

●腰かけて静かに真剣に、イエス・キリストを通して父なる神が案内しておられる道を再確認するためです。

四旬節は「荒れ野」に退くように私たちを誘っているように、聖週間も記念される救いのわざをゆっくりと味わい、黙想するように招いていると思います。

—どうか皆さん、神から私たちに与えられているその「恵みの時」を逃がさないように心がけましょう。



^{わたくしごと} * 私 ^{きょうしゆく} 事で恐縮ですが、3月26日をもって行橋小教区から離れ、八幡東区にあるパリ・ミッション会支部で生活することになりました。—しかし、それは宣教師として司祭として「引退すること」を意味しているのではありません。年齢や体力と「相談しながら」主イエス・キリストと福音のために—今までと違った形ですが—希望を持って前向きに働き続けようと考えています。年齢は年齢ですが、それを覚悟しながら人生において新しいスタートを切ろうとしています。—厚かましいとは思いますが、その「時」に当たって皆さんの祈りの支えをいただくことができるなら ^{まこと} 真に幸いに存じます。

皆さん、7年もの間 本当に大変お世話になりました。人生は一期一会の繰返しですが、私にとって、行橋小教区での7年間は皆さんのおかげで人間として司祭として幸せに満ちたひと時でした。皆さん一人ひとりに厚くお礼を申し上げ、心から感謝致します。

不幸にも私の不注意のため不愉快な思いをさせ傷つけた方がおられましたら、この紙面を借りて心からお赦しを願います。—父なる神の愛のうちに交わり、イエスの福音に導かれてきた行橋小教区が、一層、

主イエス・キリストに相應しい共同体として生き続けることができるように、聖霊の働きを祈り求めながらこの「司祭のてがみ」にサインさせていただきます。付け加えなくてもよろしいかと思いますが、八幡でいつでも皆さんのお越しを楽しみにお待ちしております。気楽においでください。
 皆さん本当にありがとうございました。

